



新任職員・・・インタビュー



入職して半年

保育士 北原 未来

愛の聖母園に就職してから半年が経ちました。半年間はあつという間に過ぎました。

入職してすくは日々の流れ、それに応じた職員の動きなどを覚えることが大変でした。また、私が所属しているホームは、ご飯を毎食ホームの職員が調理するので自分にもできるか不安でした。今は調理をする機会も増え子どもたちに美味しいと言ってもらえるよう頑張って作っています。子どもとの関わりでは、最初はうまく関われるか不安と緊張を感じていました。でも子どもから「遊ぼう」と声をかけてくれたことで自分自身も緊張が和らぎ楽しく関わる事ができました。1年目は子どもと遊ぶことが多かったです。先輩から子どもから遊びに誘われた時は、こつちが楽しませてあげようという気持ちも大切だと学び、誘われた時には一緒に楽しく遊ぶことを大事にしています。一緒に遊んでいる時に子どもたちが笑ってくれると私も嬉しいと感じています。

児童養護施設で生活している子どもたちには、様々な背景があり、子どもたちが負った心の傷は私が思っているよりも大きいのです。だからこそ子どもたちにとって私は何ができるのか、どんな関わりをしていくべ

きなのかと考える日々です。子どもの気持ちをすべて理解することは難しいですが、子どもの話には耳を傾けて受け止めながら気持ちに寄り添っていくことを大切に、子どもとの関係を築いていきたいと思っています。

愛の聖母園に就職をして

児童指導員 嘉島 魁人

愛の聖母園に4月から就職して半年が経とうとしています。初めは、業務を覚えていきながら子どもたちとの生活に慣れることや子どもたちの持ち物を覚えることなど、ホームを知ることから始まりました。覚えることややる事が多く、気づけばその日その日が過ぎていく毎日です。業務をしながらでも先輩職員は、子どもと遊んだり、会話をしながらその日の体調までも見抜く姿を見て、業務をしながらでも常に子ども

たちの様子を見ているからだと思い、私自身も業務をしながらでも常に子どもたちの様子を見ておけるようにしたり、子どもと会話をする時間を大事にしていきたいと思っています。

子どもたちの性格・特性・背景は異なる。関わり方は、一人ひとり違うからこそ、日々手探りで考えながらではあるが、上手いかず振り返られてしまうこともあり、後悔と反省を繰り返すのが日常茶飯事であります。その中で、先輩職員にフォローしてもらいながら、アドバイスをいただき、学ぶことができて感謝しています。また、子ども一人ひとりに言動や行動が見られている事を常に意識しながら生活をしていかないといいけません。子どもは、良い事も悪い事も吸収していくので、善悪の判断や価値観など、お手本となるように行動をしていきたいと思っています。また、「ありがとう」の感謝の気持ちや「ごめんなさい」の素直な気持ちなど、子どもたちからも学ぶ事が沢山あるので、これからも日々、学び続ける姿勢を持ち続け、沢山の事を吸収し、成長していきたいと思います。

子どもに寄り添える職員になれるように生活の中での喜怒哀楽を大事にしていきたいと思っています。